

特集1 再発防止対策による企業風土改革

企業風土改革をさらに推進し、新しい北陸電力グループを創り上げてまいります。

当社グループは一連の発電設備の不適切事案を踏まえ、昨年来、再発防止対策に取り組んでまいりましたが、本年3月、社外有識者の方々による「再発防止対策検証委員会」から、取組みが定着したとの評価をいただきました。

今後とも、「隠さない風土と安全文化」の定着に向けた取組みを地道に続けていくことで企業風土改革を推進し、新しい北陸電力グループを創り上げてまいります。

再発防止対策全般の実施状況と再発防止対策の評価

再発防止対策のうち、「仕組み作り」が必要な施策は、制度・体制などの整備や構築がすべて完了。また、2007年度の実施回数等を設定した研修・教育などの「運用状況」で管理する施策については、すべての施策で目標を達成しました。

◆再発防止対策検証委員会、国からの評価

再発防止対策検証委員会から3月3日に「再発防止対策としての取組みが定着した」との評価を受領しました。

3月14日には、国から特別な保安検査において、再発防止対策が着実に実施されているとの評価を受けました。



児嶋委員長(中)から報告を受け取る社長

主な再発防止対策の実施状況

(1) 制度・体制等の仕組みの構築

● 隠さない・隠せない仕組み

—迅速かつ確実な対外通報・報告体制の整備—

全ての異常事象を対象に、第一報を発電所駐在の保安検査官、社内関係箇所に通報しています。



トラブル訓練で社長へ報告する原子炉主任技術者



報告を受ける社長

—発電所情報の国および経営層・原子力本部への伝送—

2007年10月から、原子炉の状態など志賀原子力発電所の情報を、国の保安検査官、当社経営層へ常時伝送しています。



伝送データを確認する原子力本部長

● 失敗事例に学ぶ仕組みの充実

各部門で発生した事故・トラブルの教訓を踏まえて、全社的事故防止に繋げるため「失敗事例活用連絡会」を開催し、情報共有・水平展開を図っています。



失敗事例活用連絡会

(2) 社外とのコミュニケーション

● 地域の皆さまとの対話活動の強力な推進

2007年度の対話活動の実施回数は815回を数え、このうち志賀町や近隣の七尾市・羽咋市・中能登町では210回実施しました。



志賀町での説明会

(3) 企業風土改革に向けた取組み

● 経営トップとのフランクな対話の実施

経営層と発電部門社員が膝詰めで、安全最優先とコンプライアンスについて率直な双方向対話を行う取組みです、2007年度には112回実施し、のべ1,682人が参加しました。



社長と発電課員との当直員控室での対話

再発防止対策検証委員会の「2007年度報告～再発防止対策の評価～」の要旨

- ・2008年2月末で再発防止対策の進捗率が100%に到達したことを確認した。
- ・これまでの実施状況、取組み体制、仕組みの機能状況・社外とのコミュニケーション・企業風土改革に向けた取組みに関する検証内容を踏まえると、原子力安全信頼回復推進委員会を中心とするPDCAサイクルが確立され、再発防止対策としての取組みが定着したと評価する。

特集2 志賀原子力の耐震安全性確保

志賀原子力発電所の耐震安全性のより一層の向上を目指し、新耐震指針に照らした耐震安全性評価、耐震裕度向上工事などを実施し、安全性のさらなる確保に向けて着実に取り組んでまいります。

新潟県中越沖地震を踏まえた対応状況

● 自衛消防体制の強化

化学消防車、水タンク車などを導入し、専任の化学消防隊を新設しました。

また、地元消防署との連携訓練を実施しました。



地元消防署との連携訓練

● 設備の対応強化

固体廃棄物貯蔵庫内のドラム缶転倒防止・消火対象物への進入道路の地盤改良などを実施しました。

新耐震指針に照らした耐震安全性評価(中間報告)について

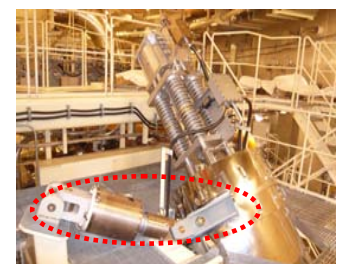
新耐震指針に従い新たに策定した基準地震動に対しても、志賀原子力発電所2号機の安全上重要な施設等の耐震安全性が確保されていることを確認し、2008年3月、原子力安全・保安院に中間報告を提出しました。

引続き耐震安全性評価を実施し、2008年10月には2号機の報告を、2009年6月には、1号機の報告を行います。

耐震裕度向上工事

志賀原子力発電所2号機について、一層安心していただくため、設備の耐震補強工事を2006年11月から開始し、2008年3月に完了しました。

(実施箇所 1,246箇所)



防振器の追加

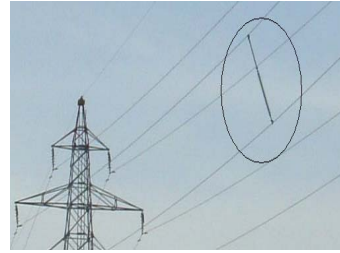
皆さまから信頼される企業を目指して

お客さま満足の上

● 高品質な電力流通システム

送電線、変電所などの電力ネットワークを効率よく運用し、24時間体制で監視を行っています。

また、雪害防止のための相間スペース設置などによる設備強化や定期的な巡視・点検により、停電事故の未然防止を図っています。



相間スペース

● 現場技術力の向上

停電を早期に解消できるよう、日頃から工事技能教育を行っています。また、熟練した技術技能を保有し、職場の第一人者として認められる従業員を「技術マスター」として認定し、技術技能の向上および後進への継承を図っています。



技術マスターによる指導

● 2007年度の安定供給確保への取り組み

志賀原子力発電所の停止により、供給力が著しく低下する厳しい状況となり、火力部門、流通部門をはじめ全社一丸となって電力の安定供給確保に取り組みました。

◆ 設備保全への取り組み

火力設備については、定期検査の時期を電力需要の低い時期に変更するため、メーカー、グループ、協力会社と一体となって計画的補修を行うなど詳細調整を実施しました。敦賀火力では、年末年始の約1週間にのべ2,070人が休日返上で設備点検・補修作業を行いました。

流通設備についても、定期巡視に加え、停電を未然に防ぐための特別巡視や設備の早期点検・補修を行いました。



火力発電所定期検査

地域社会との共生

● 「こども110番の車」運動

北陸電力グループは、子どもたちの安全を守るため、社有車にステッカーを貼り、「こども110番の車」運動に取り組んでいます。

現在、運動を展開するグループ会社は9社、車両は約1,800台です。



ステッカーを付けた社用車

● 国・地方自治体による中小企業支援制度のお客さまへのご紹介

お客さま訪問活動の中で、当社発行の企業経営情報誌「元氣通信」に国や自治体による中小企業支援制度の概要などを掲載し紹介しています。



元氣通信

● 教育支援

エネルギーや地球環境問題について理解を深めていただくため、小中学校・高校に、社員が講師として出向く「出前講座」を実施しています。

2007年度は計112回実施し、延べ4,311名に受講していただきました。



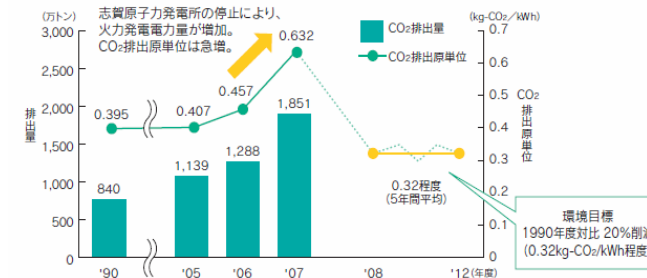
出前講座

環境にやさしい社会の実現を目指して

CO2排出量削減など重点的な取り組み

志賀原子力発電所の安全・安定運転を基本に、再生可能エネルギーの導入を推進するとともに、お客さまの省エネルギー支援を進めるなど、地球温暖化防止に取り組めます。また、地域における環境保全活動やPCB処理を推進します。

● CO2排出原単位目標



● 原子力発電の推進

志賀原子力の安全・安定運転に取り組めます。

● 再生可能エネルギーの導入推進

風力発電、木質バイオマス発電、太陽光発電、水力発電などの再生可能エネルギーの導入を推進します。

■ 福浦風力発電所計画

発電所規模	21,600kW (2,400kW×9基)
発電量	4,100万kWh/年程度
運転開始	2009, 2010年度(予定)
CO ₂ 削減量	1.3万t-CO ₂ /年程度

■ 木質バイオマス混焼発電実績(2007年度)

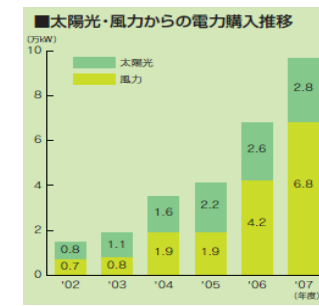
対象設備	敦賀火力発電所2号機
混焼発電開始	2007年6月29日
CO ₂ 削減量	約1.0万t-CO ₂



福浦風力発電所完成合成予想図

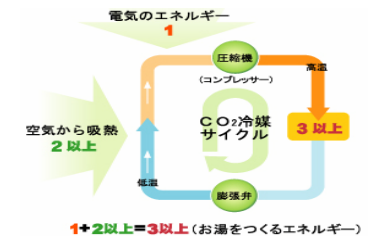
■ 太陽光・風力からの電力購入推移

太陽光・風力発電から電力購入を推進し、自社設備の設置を検討します。

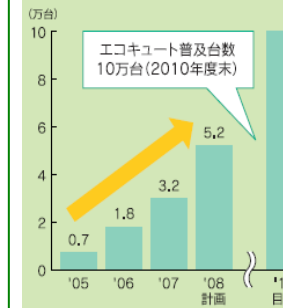


● お客さまへの省エネルギーへの支援

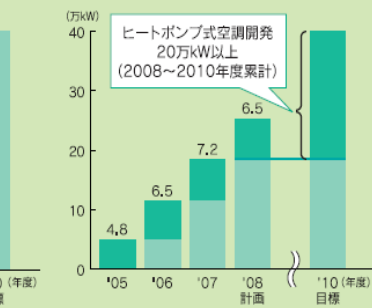
CO2削減効果が高いエコキュートやヒートポンプ式空調など、お客さまのお役に立つ提案活動を推進します。



■ エコキュート普及台数(年度累計)



■ ヒートポンプ式空調開発(年度累計)



● 地域の環境保全活動の推進

自治体による森づくり推進事業への参画や環境美化清掃など、地域の環境保全活動を推進します。

■ オリジナル「マイバッグ」の製作

オリジナルマイバッグを製作し、環境にやさしいライフスタイルの実践をお手伝いします。



■ 水の恵みをありがとう! 「森に恩返し活動」

水源涵養など様々な恩恵を与えてくれる森林への感謝活動として、植林など森林保全活動を行います。

● PCBの管理徹底・処理推進

低濃度PCB容器処理施設の運転開始により、現在稼働中の絶縁油処理施設と合わせ、グループ会社と一体となってPCB処理を推進します。



絶縁油リサイクルセンター

「北陸電力グループCSR報告書2008」の詳細は
ホームページ「CSRへの取り組み」(<http://www.rikuden.co.jp/csr/>)をご覧ください。